

私が訪れたことのある図書館で、最も思い出深い図書館は、鹿児島県大島郡知名町（沖永良部島にあり、沖縄より北におよそ 200km）にある知名町立図書館（<http://www3.town.china.lg.jp/>）です。大変博学な図書館長であり、日本島嶼学会が徳之島で開催された際に大変お世話になりました。また、前任校の鹿児島大学離島看護学実習にて、学生 90 名と共に沖永良部島を訪れた際にも沖永良部という島、民族性、離島医療についてご講義をいただきました。「ハンダマ（水前寺菜）」という沖永良部島独自の伝統的な野草について、黒糖焼酎を飲みながら熱心に語っておられた姿が昨日のように思い出されます。沖永良部島はユリの花の栽培が盛んで主要産業で北は北海道まで出荷しており、秋田の花屋でよくみるユリも、沖永良部からきたのかなと、ふと懐かしく思います。

しかし図書館というものは、その場所によってさまざまな本が置いてあることに毎度驚かされます。もちろん、児童文学や日本の歴史など、日本という国のコアとなる文献や、人気作家の新書等、共通するものも多々ありますが、それ以上に、その地方の食文化や生活習慣等を含めた民族性に関する文献、歴史、土地の成り立ちや地名、姓の発祥など、同じ図書館というものでも内容は様々です。その土地の文化を知る上でとても有益であると同時に、その文献をじっくり読むと、自分の育ってきた環境や習慣との違いに驚かされ、学会や旅行で見知らぬ土地を訪れた際には、フラッと立ち寄ることが習慣となっています。今更ながら、私の出身地である秋田県横手市にある市立図書館の「秋田コーナー」に先日立ち寄りましたが、地元でもこんなに知らなかったことがあるのだなと思わされたり・・・イルカを食べる文化など・・・。

現在は情報通信網の発達により、インターネットを用いて手軽に情報を取得できるようになりました。利点もありますが、端的な情報に偏っていたり、物事に対しての本質が見えにくかったりと、多くの課題もあります。じっくり本を読みながら、その本質とは何かを考えたいですね。みなさんも是非、見知らぬ土地で図書館を訪れてみてください。図書館には未知の文化があふれていますよ。